

中心」と書かれています。意味は釈迦如来が仏法を説いている場所であり、ここが極楽の入口であることを表しています。

※03 また古い時代は大阪湾がすぐそばまであり四天王寺からは鳥居を通じて海に沈む夕日を拝することができました。

3) 西大門（極楽門）

参道から石鳥居を通り抜けると西大門があります。極楽に通ずる門の意味から、通称 極楽門とよばれている。推古元年（593年）創建。

「上町台地」の西端は「大阪湾」に沈む夕陽を望める場所であり、「夕陽丘」という地名もある。平安時代、真言宗開祖の弘法大師空海が「四天王寺」から真西に沈む夕日を見て、西方の極楽浄土を観想する「日想観」を行った地であり、その後、浄土宗開祖の法然上人も「日想観」をこの地で修し、その草庵が現在の「一心寺」となったという。

四天王寺は終戦間際の大阪大空襲で、ほぼ全域が焼失してしまった。

昭和 37 年、松下幸之助氏の寄贈により再建された西大門は、極楽に通ずる門の意味から、通称 極楽門とよばれている。

門の内部には番浦省吾作の釈迦如来十大弟子武庫山（ぶこさん）出現の山越阿弥陀如来、観音製紙菩薩の画像が描かれています。

四天王寺の日想観を象徴する西の方角に建つ極楽門。参拝客が回す転法輪なども備え付けられており、数多くの人の往来が予測される場所だけに、さすがに自転車での通り抜けは禁止されている。

中世の頃まで、大阪の姿は現在とはかなり違っていた。上町台地の西側には海が迫り、視界を遮る建物や森林もない。聖徳太子が創建した四天王寺（大阪市天王寺区）の辺りは大阪湾の方向に沈む夕日を眺める絶好の場所だった。

四天王寺西門（極楽門）で行われた日想観の法要(大阪市天王寺区)

中世は浄土信仰が広がった時代でもあった。釈迦の没後 1500 年後には仏の教えが守られない恐ろしい末法の世が来る。阿弥陀如来のいる極楽浄土に導いてもらおうと、人々は祈りをささげた。

修行の中心地に

はるか西方にあるとされる極楽浄土に行くにはどうすればいいのか。観無量寿経（かんむりょうじゅきょう）はその方法として、浄土の情景を思い浮かべる修行「観想」を 16 種類、記している。その最初に説かれているのが、西方の浄土を思って日が没する様子を見詰める「日想観」。四天王寺はその修行の中心地としてにぎわったという。

